

目 次

發 刊 の 辭

- 會誌發刊に際して……………舟 橋 弘 一……………(2)
 會員の覺悟……………小 澤 晋 次……………(3)
 大阪より……………佐 藤 郁 三……………(4)
 名染會の更生を祝す……………齋 藤 幸 七……………(4)
 色染科教室より……………大 島 徳左衛門……………(5)

論 說

- 發明の獎勵と權利絶對尊重の提唱……………福 田 都 雄……………(6)

報 文・譯 文

- 人絹糸及びス・フ・糸交織物の苛性曹達處理に關する實驗…大 島 徳左衛門……………(7)
 ス・フ・織物の精練漂白法……………押 山 銈 一……………(9)
 ナフトール下漬劑のバツデングに關する一問題……………日 高 佐 吉……………(11)
 インデゴゾール染料羊毛布捺染法……………木 全 春 彦……………(14)
 羊毛のマーセル化處理に就て……………鈴 木 義 鑑……………(16)
 防水布試験法……………二 藤 譯……………(18)
 各地羊毛の黄變防止法……………(21) 澱粉糊の粘度測定法……………(21)
 精練劑に Ethylen Dichloride を……………(22) 直接染料の水洗堅牢度増進法……………(22)
 粘度測定に依る脆化程度の測定……………(23) 黄血鹽法アエリン黒染……………(23)
 建染々料の性質及其の應用……………(24) 人絹ブラツシュ及ベルベットの捺染に就て……………(24)
 蛋白質應用に依るインデゴゾール染料防染法……………(25) 絹綿靴下の仕上法……………(25)

名 地 事 情

- 尾西服地發達經路の一端に就て……………今 中 公 次……………(26)
 福井地方に旅して……………二 藤 正 治……………(26)
 上海雜感……………高 橋 則 一……………(28)
 新入會員歡迎の夕……………Y S 記……………(32)

工 場 紹 介

- 庄内川レーヨン株式會社……………岩 崎 記……………(31)

關 係 特 許

- 明細書摘録……………(33)

- 名 染 會 々 則……………(37)

- 名 染 會 役 員……………(38)

- 編 輯 室 よ り……………(38)

會誌發刊に際して

舟 橋 弘 一



吾々が實社會に處するの途は多々ありますが、何を置いても先づ自己の職務に精勵忠實であるべきことは云ふまでもありません。然し唯最善の努力を傾注しつゝありと自覺の誇りを堅持しても、それは學窓を出て數年、自己の位置が比較的下級である場合のことで、歳々年々花相似たれど人不同で、知らぬ間に位置は向上し、時代は推移し、周圍よりの期待は擴大するゝものであります。

尋常の修養に依つては、性格の一端すら容易に改善し得ざるが凡人の慣ひ、年を累ぬるにつれ、位置の向上に従ひ、適所適人振りを遺憾なく發揮し、上下の人々の期待に添はんとするには、絶へず反省、性行の是正に努むると同時に責任感を發奮せしめつゝ實力の養成に献身的邁進を一日一日と續け行く覺悟が必要であります。

我が名梁會先輩諸兄は、この心持ちを念頭に多年健闘され、斯界の重要な方面に活躍されつゝありますことは眞に慶賀に耐へない次第であります。一轉思ひを吾々の集團であるDD俱樂部の過去に馳するの時、各自の心構へと本俱樂部に注がれたる熱意と、そこに多大の距たりあるを痛感せざることを得ないのであります。勿論名古屋工業會が全同窓を抱擁し相互の親睦、母校との連絡、斯界に對する貢獻等、團體として遺憾なき發展向上の一路を述りつゝあり、一面DD俱樂部としても地方的には一致團結共存共榮を策しつゝ經過したのであります。総合的には時代の推移に適應せざる恨みなしとは云ひ得られませんでした。

翻つて世相の變遷を考察するに、競争の激甚さと生存難の加重は、兎もすれば協調的なり自我的に走らんとする傾向あるが如くに想像されますが、人間本來の性は、一樹の蔭、一河の流れにも云ひ知れぬ親しみを感ずるが自然で、血は水より濃しの比喩通り實社會には縁にしの糸が思つたより強く結ばるゝもので、最後の學窓、同一の技術を通じての親しみは亦別で、二十年、三十年の星霜を超越して一致融合の實が結ばれて居るものであります。特に吾々名梁會員は、あの學窓三年、他科に比し著しく數の小を以て對抗意識旺盛、何事も唯團結の一途と訓練されし氣持は、三十年の月日を一貫し各方面に散在居住するも、いざと云へば團結の誇りを如實に發露し得たる機會を重ねつゝあることに甘んじて、昔ながらの歩みを續けて來たのであります。

然るに數年前より叫ばれし非常時の聲は年を経るにつれ、その浸潤方面を擴大し耳朶より心魂に徹し一方纖維工業は時局の重大さを加ふると共に益々重要性を確認され、吾々技術者は今更發奮あらゆる方面に研究努力を拂はんとする旺盛なる自覺心を喚起すると同時に期せずして吾々の團結の必要を痛感し併せて我が科の權位向上を切望する空氣が何處からとなく湧出するに到つたのであります。

計らずも昨秋突如として母校内に應用化學科設置云々の聲あるを聞き、DD俱樂部傳統の誇りである一致結束は見事なる統制下に活躍し、科名變更、定員増加の要望、強化委員、全國大會、名梁會の出現等々半歳を經過せざるに時代に適應せる新陣容を整備されたのであります。この間、當面されし委員竝に役

名 染

員諸氏の努力、苦勞、犠牲がどんなに深刻なものであつたかは、生みの腦みの絶大さを体験された方々には想像されますが、茲に謹んで深甚の敬意を表して置く次第であります。

斯くして三十年の光輝ある歴史を誇るDD倶楽部は名染會と更生し、多事多難の纖維工業界に雄飛すべく奮起したのであります。今回その一事業として「名染」と云ふ會報が発刊されることになりました。何事も立場の相違に依り意義の深淺と解譯の差はありますが、會報「名染」の出現こそ恐らく全員に異常の感激を與へ、期待に添ふこと多大なるものあるを確信します。然し云ふは易く、行ふは難しの眞理は多人數を抱擁する集團の事業遂行上、一層至難の度を加ふるものです。その成否は全員の一致協力の具体化に依つてのみ完成されるものであることに留意され、この「名染」の門出を祝福すると共に育成の任、全員にあるを自覺されんことを切望致します。

會 員 の 覺 悟

小 澤 晋 次



DDクラブを名染會と改稱せし理由は會員間に種々意見もあつたが、要するに躍進名古屋の名聲と共に母校色染科の將來性を考へ、全国的に他校より優位の團體として發展せしめ度き會員の熱望が原因せしめたのである。今後名染會をして充分効果あらしめる爲めには一に會員の協調と犠牲的努力並に會員と母校相互の連絡が肝要である。

從來、母校を卒業し社會に活動せる會員は可なりの數に上り、決して他校と比較して貧弱の數ではない。且又社會的地位を見るも相當ヘッドにありて奮闘して居るのです。然して、その會員が今日迄相互の連絡に何等の統一せる指導機關を有せず、母校の爲め、後進者のため甚だ遺憾の次第であつた。むしろ今日迄會員間に何等の意見のなかつたのが不思議と思はれた次第です。

吾人にとりて統一ある團體の活動が如何に實社會に有力なる發展と生活上に有利であるかは言をまたず。實際會員が独自の立場にて活動することは、人物如何に依りて或る程度の成功は出来るも、その範圍は小にして、たまたまチャンスをつかたに留まる。若し、その背後に直接間接その人物を支持する有力なる團體があるときは、その人の地位又は事業上の成功は今一步より大きくせしめ、自己のため後進者のため權威ある進歩發展を來たすこと必然とす。少くとも會員は先輩者の成功を祈り、同時に後身者は先輩者の經驗指導に依り自己の發展榮達を期せねばならぬと考へます。

要するに會員相互の發展成功は即ち母校色染科の向上發展に資し、母校を充實せしめることになるのであります。此處に團體として新たに名染會が生れ、この名染會が相互の連絡及び指導機關として今後意義ある發達を熱望すると同時に、會員一致して努力することに責任感念を新たに喚起することに致し度いと存じます。何卒各位の奮闘を希望する次第であります。

大 阪 よ り

佐 藤 郁 三

皆様のお骨折で名染會が生まれました。そして會の事業の一部として會報が発行される由、誠に結構なものと存じます。當番幹事諸君に對して感謝の外はありません。この會は名古屋工業會よりも更に内輪の會ですから、此の會報には心易い氣分でドシドシ書かうではありませんか。私も大阪に來たのは新しく、他に古い方、古い先輩があるのに評議員に御推薦下さいまして全く恐縮です。然しこれは多分最近迄永らく名古屋に居たので、本部の空氣をよく知つて居ること、染料屋に勤めて居るので走り廻るのに都合がよからうと云ふ様な譯であつたことと考へお受けする次第です。



大阪地方でも會員の方に早速一度集まつて頂く爲に、大阪地方會を開きたいのですが、生憎目下大御所の東洋紡の根岸サンが洋行中ですからお歸りになつてからがよいだらうと云ふ説もあります故まだ其運びになつて居りません。工業會の名簿を開いて見ますと、古い處で巴商店主の高橋サン、高瀬染工技師長の槽谷サン、丸五商店主の蜷川サン、稻畑商店重役の烏居サン、日本刀劍會で有名な加藤サン、平岸化學研究所主の平岸サン、元淑徳女學校に居られた林サン、福助足袋の岩田サンなど。新しい處では日本染料の都丸君、大日本紡績の中島君、鐘紡淀川工場の服部、戸河里、加藤君なども居られる皆面識のある方だ。合計して二十六人ある。矢張大大阪だ。勇士の數はかなり多い早く一度會合がしたいものである。

先日神戸地方の大御所吉田サンに會つたら名染會の會合は合同で開いて神戸大阪と會場を交互にやつたら面白いだらうと云つて居られた、之れも亦一案であらう。兎に角出來上つたばかりの會のことではあり、ドンナ風に進んでいつたらよいか能く判らないが、幾分でも本部の御希望に副ふ様にお世話がしたいと思つて居ます。(二、二一記す)

名 染 會 の 更 生 を 祝 す

齋 藤 幸 七



本邦の纖維工業界も國家の非常時局と共に愈々多事なるの時、吾等のDD俱樂部が舊衣を棄脱し、革新の脚光を浴びつつ輝しい更生の麗姿を示現するに到りましたことは誠に欣喜に耐えないところであります。

願まするに本會が生れて既に卅年、其間母校諸先生の適切なる御指導と會員諸賢の絶えざる御努力とに依りまして會勢は逐年發展の一途を辿り、今や會員も其數三百、而して概ね全國に分布致しまして夫々の職能に應じた熱烈有爲なる活動の現況を持ちますことは是亦慶賀に耐えない次第と考へるのであります。

然し乍ら又翻つて別な角度より本會の總貌を大觀しまする時に何かしら一沫の物足らなさを感得する様な氣が致します。吾々の過去を顧みて満足すべきものであつたかどうかといふ事を考へさせられるのであります。單に時の流れと共に自然増大膨張する會員の堆積丈に自己満足の陶

酔を見出す様な態度に墮する事なく、何等かの刺戟と理想とを求めて會員 一体の意義ある活動こそ期待し度い様に痛感致します。そして名工色染科の存在を強化顯揚せんのご念願に耐えません。

従ひまして本會今次の改組更生は 寔に吾人の要望に副ふの 企劃と考へるのでありまして切に其の健全なる發達を希ふのみならず、之を機會に回首一旋、周圍を究めて自己眞の様相を悟り、以て颯起奮勵の所以と必要とを確把すると共に、會員互に緊密なる連繫と鞏固なる結鎖を保持しつつ、研鑽、練磨、一面又有機的活動の圓滑をはかり、業界に力強い意氣を示し度いものと熱望するのであります。

甚だ抽象的短言にて恐縮致しますが本誌創刊に方りまして其成立を慶祝致しますと共に寸感を添へまして各位の御批判とを仰ぐ次第であります。

色染科教室より

大 島 徳 左 衛 門

我色染科卒業生の團體である「DD俱樂部」は「名染會」と改稱せられ、會誌「名染」創刊號が、新に選任せられた編輯委員諸君の御努力により發刊せられることになりましたのは、古い會員の一人であり且つ現に科内に在職して居る私としては頗る欣快に存する次第であります。今後は「名染」誌上に於て工場、商店、學校、試験所、検査所、組合等の各方面に活動せらるゝ會員諸君の研究なり調査なり經驗なりを發表して頂れば御互に裨益する所甚大であると存じます。何卒交代して必ず執筆して下さいを切に冀望をして止みません。

序に少し紙面を拜借して、科に關する二、三の事項に就き申述べます。

新卒業生、三月十七日を以て我色染科を卒業しましたのは本科生十二名、教員教成所生二名、選科生一名でありまして、其就職先は工場方面十名、商店四名、試験所一名となつて居ります。本年度は意外に景氣宜しく採用申込多數に上り、卒業生としては取捨選擇の餘地があり大層幸福であつたのですが、就職が容易に出来るときは應々緊張味を缺き易いが人情でありますから、此點に關し新卒業生の爲めに先輩諸君の御同情ある訓戒やら鞭撻を得たいと存じます。

新入學生、本年度入學試験は三月廿四日より開始せられ、色染科入學志願者は本科60名、教員教成所9名であつて、昨年に比較し稍減少を示して居りますが、志願者中には中等學校の成績が相當に優良のものが多數包含せられて居りますので、昨年に劣らない素質の良い生徒を收容し得ることと樂觀して居る次第であります。我々教職にあるものとしては可成的素質の優秀なる生徒を得て在校三年間に身体強健、學識豊富、研究心旺盛、人格崇高、思想堅實、勞務不辭等の美質を具有せしめ、將來我國染色工業界に活躍し得る有爲の人材を教養したいのが願念であります。會員諸君には折に觸れ機會をとらへ、優良學生をして我科を志望せしむる様御盡力を賜りたいのであります。

科名變更並に生徒定員増加問題、昨秋の大會に決議されました同問題は學校長の承認を得て居りますので其御盡力により昭和十二年度中には文部省の許可を得られることを豫期して居ります。

名 染 會 々 則

總 則

第一章 名稱、目的、所在地

第一條 本會ハ名染會ト稱ス

第二條 本會ハ會員相互ノ親睦ヲ圖リ併テ名古屋高等工業學校色染科トノ連絡並ニ是界ノ發展ニ資スルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ本部ヲ名古屋高等工業學校色染科内ニ置キ便宜ノ地ニ支部ヲ設ク

第二章 會 員

第四條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス

一、正會員 名古屋高等工業學校色染科出身者

二、特選會員 名古屋高等工業學校色染科及ピ化學教室現教官並ニ舊教官ニシテ賛意ヲ得タルモノ

三、贊助會員 本會ノ趣旨ヲ贊助シ役員會ノ推薦ニ依ルモノ

第三章 役 員

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、幹事長 一名

一、常任幹事 若干名

一、幹事 若干名

一、評議員 若干名

第六條 幹事長並ニ常任幹事ハ幹事ヨリ互選シ幹事ハ正會員ヨリ互選ス

第七條 評議員ハ正會員中ヨリ幹事會ニ於テ推薦ス

第八條 役員ノ任期ハ二ケ年トシ重任ヲ妨ゲズ

第四章 事 業

第九條 本會ハ左記事項ヲ行フ

一、年一回大會ヲ開催シ其他必要ニ依リ隨時大會ヲ開催ス

一、會員ノ研究發表

一、會員ノ就職紹介

一、會員ノ慶吊

一、會員名簿ノ刊行

一、其他必要ト認ムル事項

第五章 會 計

第十條 本會ハ入會金及ビ寄附金ヲ以テ基本金トス

第十一條 本會經常費ハ會費基本金利子及其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 正會員ハ入會金トシテ金參圓、會費トシテ毎年金壹圓ヲ納附スルモノトス

第六章 總則變更

第十三條 本會總則ハ正會員過半数ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ變更スルコトヲ得ズ

細 則

第一章 支 部

第一條 會員多數居住又ハ特種事情ノ地方ニ支部ヲ設クルコトヲ得但シ役員會ノ承認ヲ經ルヲ要ス

左ノ地方ニ支部ヲ設置ス

名古屋、東京、大阪、京都、和歌山、神戸一宮、津島

第二章 役 員

第二條 役員ノ員數及ビソノ選出方法

幹事ハ名古屋市及ビソノ附近居住ノ會員ヨリ選出ス幹事ノ數ハ約二十名トシソノ約半数ヲ常任幹事トス

評議員ノ數ハ約二十名トス

第三條 幹事長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

第四條 幹事ハ幹事長ヲ補佐シ左記事務ヲ分擔處理ス

一、總務部 各部ノ連絡ヲ圖リ庶務ヲ主理ス

二、事業部 編輯以外ノ事業ニ關スル事務ヲ主理ス

三、編輯部 編輯事務ヲ主理ス

四、會計部 會計事務ヲ主理ス

第五條 評議員ハ本部トノ連絡ヲ圖リ併テ重要事項ノ相談ニ應ズルモノトス

第三章 選舉及推薦任期

第六條 役員ノ任期ハ選舉又ハ推薦セラレタル年ノ四月一日ニ始リ翌々年三月末日ニ終ル

第七條 選舉ハ記名投票ニ依ル

第四章 編 輯

第八條 名簿ハ年一回以上、會報ハ年三回以上刊行ス

第五章 會 計

第九條 本會ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月末日ニ終ル

第十條 毎年度豫算並ニ決算ハ大會又ハ名古屋工業會々報ニ依リ報告ス

第六章 細則變更

第十一條 本細則ハ幹事過半数ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ變更スルコトヲ得ズ

役 員

(昭和十二年四月より)
向ふ二年間

〔幹事長〕

舟橋 弘一

〔幹事〕

總務部

○瀧野蕃世、佐藤英太郎、小澤晋次
○二藤正治

事業部

○本田博、黒田正隆、○山田守保、
○長谷川勤 大井定八

編輯部

菊本二郎、○羽州弘通、○岩崎健治
○中尾初男、○西郷左藏 ○二藤正治、坪井録三郎、
○鈴木義鏞

會計部

坂倉嘉貞、○二藤正治、高木得三、天野菊雄
○鈴木義鏞 (但し○印は常任とす)

〔評議員〕

(名古屋) 大島徳左衛門	(濱松) 福田 都雄
丹羽 虎次郎	(横濱) 尾川 岸太
三好 甲子郎	(仙臺) 布村 元資
(東京) 中岡 益雄	(一宮) 吉光 正義
藤田 正一	(三重) 永井 謙吉
(岐阜) 赤堀 儀三郎	(滋賀) 戸塚 定雄
高木 頼三光	(京都) 小林 盛逸
(大阪) 根岸 郁三	(神戸) 吉田 隼三
池目 増次郎	(廣島) 星出 寛一
(和歌山) 菅井 越夫	(四國) 押山 銈一
	(青島) 高須 滋一
	(上海) 高橋 則一

編 輯 部 員 各 位 之 寫 真
(左より右へ)



編輯室より

お待兼ねの會誌創刊號は全國會員各位の絶大なる御援助に依りまして、こゝに出来上りました。何しろ編輯幹事何れも無経験でありまして我々としては相當馬力を掛けた積りですが物足りない所が多々あらうと思はれます。御一覽下さいまして今後こうしたらどうかあゝした方がよからうと御氣付きになつた點は、恐縮ですが早速本部宛御知らせ願ひます。未だ生れたばかりの不完全なものですから今後共皆さんの御援助に依つて益々よきものに育て上げてゆきたいと思つて居ります。是非御批評を御願ひします。

御覽の通り各地會員各位より貴重な原稿を御送り下さいまして深謝致します。舟橋、小澤、佐藤、齋藤諸氏よりは名染會團結に關する忌憚なき御意見を賜り益々我々の責務重大を感じ、福田氏の「發明權の尊重」と題する御高説を拜聴しては眞に然るべきだと考へさせられます。又押山、日高、大島、木全の諸氏よりはそれぞれ貴重な御研究の結果を發表下さいまして各専門に對するよきしるべとならうと信じます。今中、高橋、二藤の諸氏よりは各地方の事情を種々御傳へ下さいまして會員各位が御研究の好資料となりませう。尙庄内川レーヨンよりは貴社製品の標本を澤山頂戴しまして厚く御禮申上げます。こうした工場紹介は今後も會員多數御勤務の所から願ひして毎號連載してゆかうと考へてゐます。特許は紙數の都合で公報が載せてありませんが次號からは加へてゆきます。

尙本誌は年六回發刊の豫定ですが經費の關係で毎號表紙を附することが出来ませんので次號からは本號の表紙に繰込んで下さい。

尙又、會員各位には今後共勢々御投稿下さる様幾重にも御願ひ申します。(原稿用紙は本部に用意してありますから御一報次第お送りします)

本誌は各地會員の連絡を旨とするものですから機會ある毎に寫真にてでも御馴染にならうと思ひます。ですから御投稿下さいます際は初回の御方は是非寫真を添へて下さい。以上御禮旁々御願ひ迄。

發行所 名古屋高等工業學校校務科内	印刷者 阿部 悦治	編輯兼 鈴木 義鏞	昭和十二年四月十四日印刷
發行所 名古屋市中區下番町三〇	印刷所 三信社	發行所 名古屋市中區下番町三〇	昭和十二年四月十八日發行
電話 四三三番			